



ゆめだより



ゆめの里和田特養・デイサービスセンター
『OMF 温ったか出前コンサート』

第22号



～セイジ・オザワ松本フェスティバル（OMF）
メンバー16名による管楽器 重奏～

セイジ・オザワ松本フェスティバルの関連イベントとして、県内各地にフェスティバル出演者の有志が出向き、演奏を行う「特別出前コンサート」があり、今年は、ゆめの里和田がその会場に選ばれました。ホルンやフルートの演奏者16名は、サイトウ・キネン・オーケストラのメンバーです。こんなにも身近にプロの奏でる温ったかな音を聴きながら、会場に集まった皆さんは、夏の暑さも忘れ、幸せな時間をもらいました。

令和6年10月発行

発行 社会福祉法人松本ハイランド

〒390-1242

松本市大字和田2240-33

電話 0263-40-3377

FAX 0263-40-3370

<https://www.yumenosato.info>

特集：生産性向上プロジェクト始動！！

当法人では、令和6年4月より、生産性向上プロジェクトを始動させました。一般企業では「生産性の向上」は長年に渡り、取り組まれてきたものですが、今後急激に進む少子高齢化に備え、介護分野でも生産性の向上に取り組むことが国から求められています。介護分野の生産性向上とは、「介護サービスの質向上」と「職員の業務負担軽減」が目的です。介護助手や介護ロボットなどを導入し、生産性を向上させることで、介護職員の精神的・身体的負担が軽減され、質の高い介護サービスの提供に繋がるという考え方です。

まずは5つの入居系施設(和田特養、朝日特養、今井特養、松風園、入山辺グループホーム)に「生産性向上委員会」を設置。委員会を中心に生産性向上に向けた業務改善に取り組み始めました。業務内容を「見える化」したり、現場の課題を洗い出したりすることから始め、その課題解決に向けた様々な「打ち手」を職員自ら考え、実行していくことで業務改善され、結果として生産性を向上させる、という取り組みです。

R6 生産性向上の取り組み

4月に生産性向上プロジェクトを牽引していくメンバーを集め、キックオフミーティングを開催。理事長がキックオフ宣言し、法人全体で生産性向上に取り組んでいくことの意義を確認しました。6月には入居系施設の職員対象に「気づきシート」を配付し、日ごろ感じている業務上の課題を集めました。各施設の生産性向上委員会では「気づきシート」で出された意見や課題を付箋に書き出し、グルーピングし、特に多く意見が寄せられた項目の原因や悪影響を書いていく「因果関係図」作りを行いました。

委員会では、出された意見の多さや思いの強さなどに驚きながらも、職員から出された意見を大切に、ひとつひとつ丁寧に検討していったため、作業に多くの時間がかかりました。委員は悩みながらも、この作業工程を大切にすることで、今後、職員とともに改善策を考え、ともに実行していくことができると期待して頑張っています。



②業務の明確化と役割分担 (1)業務全体の流れを再構築



②業務の明確化と役割分担 (2)テクノロジーの活用



特別養護老人ホームゆめの里和田

和田特養では、芝沢小学校4年生の皆さんと交流会を行いました。感染症対策をとる中で、入居者の方と一緒に合唱を行い、児童の皆さんも聞き覚えがある童謡を歌ったり、ダンスを踊ったり、風船バレーや手遊びをして大変盛り上がりしました。締めくくりに、入居者から手作りの寄せ書きを贈呈し、芝沢小学校から4年生の皆さんが育てた二十日大根を入居者の人数分いただきました。早速、二十日大根を食材としたメニューに加えて、美味しくいただきました。



ゆめの里和田デイサービスセンター

～ハワイアン フラ ウルプアさんによるフラダンスの慰問～

ハワイアン フラ ウルプアさんに慰問に来ていただきました。ウルプアはハワイ語で「お花畑」「花園」を意味し、レイと花の飾り付けを見て、ハワイのダイヤモンドヘッドの見えるビーチにいてるように感じて、音楽とダンスを楽しまれていました。フラダンスをされる方たちは、踊りだけでなく、沢山の衣装がとても魅力的でした。思わずうっとりとした様子で見ている方が多く、心落ち着く時間になりました。



ゆめの里和田福祉相談センター

松本大学で行われた認知症サポーター養成講座に講師として参加しました。

大勢の学生さんを前に少し緊張しながら、実際に認知症の方と接する時に、必要な対応の仕方、心がけた方がいいことなどをお話ししました。

これから社会に出ていく皆さんに、少しでも認知症への偏見を無くしてやさしく接してもらえるようになればいいと思います。

地域貢献のひとつとして、今後もこのような機会に参加していきたいと思っています。



ゆめの里和田訪問看護ステーション

新型コロナウイルスが5類に移行されて以降、マスクをせず生活する人も増えてきていますが、当訪問看護ステーションはマスクを着用しての訪問を継続しています。

新型コロナウイルス感染の第11波到来が報じられ、現在も増減を繰り返しています。その他にもマイコプラズマなど様々な感染症の増加がみられています。

訪問時には、感染を拡大させないよう一人一人が気をつけてケアに入っています。

また、今年の夏は記録的な猛暑が続きました。残暑も厳しいため、訪問時必要に応じて利用者の住環境の温度調整をし、私たちスタッフ自身も体調を整えるためクールバンドの使用や、水分摂取を心掛けています。



特別養護老人ホームゆめの里朝日

8月3日（土）朝日村主催の「お夏まつり」に入居者と職員、職員の家族も一緒に参加しました。午後6時頃たくさんの提灯がぶら下がったやぐらを中心に多くの踊り連が輪になり、「朝日小唄」や「お夏おどり」を入居者と一緒に踊りました。踊り連表彰では、ゆめの里朝日連が「玄蕃之丞賞」（玄蕃之丞（げんぱのじょう）：塩尻市桔梗ヶ原に伝わる伝説のいたずら狐）をいただきました。

最後に花火の祭典があり、近くで見る花火のきれいさと音の迫力に驚きながら、皆さん夏の夜を楽しく過ごしました。



ゆめの里朝日宅老所

夏らしいイベントということで夏祭りを開催しました。ボーリング、水ヨーヨー、すくい、射的等を楽しめました。



昼食は流しそうめん。「来るよ、来るよ」と箸を構え、流れてくるそうめんを上手につかんで笑顔を浮かべられていました。

普段と違う雰囲気、夏らしさを感じていただくことができました。

養護老人ホーム松本市立松風園

今年の夏祭りでは、中国の伝統芸能「変面」を習得した松本市内の変面師の方をお招きして、「変面ショー」を行いました。変面師の方が扇子や手を顔にかざすと、お面が次々に十数枚変わっていき、入居者の皆様から歓声が上がっていました。お面が変わる仕組みについては秘伝とされており、一般の我々は知ることができないそうです。これからも入居者の皆様の生活がより充実するような催し物を企画していきます。



ゆめの里入山辺

7月に夏祭りを行いました。感染予防対策をとり、ご家族も招待し二胡・銭太鼓のボランティアさんの演奏で楽しんで頂きました。たこ焼き・焼きそばを、屋外ではトウモロコシ・焼き鳥を炭で焼きお祭りの屋台風で提供し美味しく召し上がって頂きました。余興では、職員が仮装し「高原列車はゆく」を利用者と唄い盛り上がりしました。職員はTシャツに一着ずつおそろいのプリントを施し着用しました。利用者様の楽しそうな表情があり、暑い夏を乗り切れるイベントになりました。



特別養護老人ホームゆめの里今井

夏祭り

8月7日に夏祭りを行いました。ボーリングや的当てなど、ユニットで考えた手作りの遊びのブースを回りながら楽しみました。水ヨーヨーやお土産をもらい、遊んだ後はお楽しみのおやつバイキング。たこ焼き、クレープ、わたあめ、かき氷、スイカ、畑でとれた枝豆を、皆さん笑顔で味わっていました。お昼の巻き寿司に「わぁ、美味しそう」と歓声があがり、お祭りを堪能しました。



ゆめの里今井福祉相談センター



ゆめの里今井福祉相談センターでは、今年度から新たに「ゆめ喫茶 今井」を毎月第4木曜日の10時～12時に開催しています。「地域の居場所」や「交流の場」として気軽に参加でき、参加者同士でお茶を飲んだり催しを観たりと楽しい時間を過ごせる場所になればと思い、始めました。

開始当初の「ゆめ喫茶」には、地域の方に参加していただけるか不安もありましたが、地域の方も来てくださり、特養の入居者さんも一緒にフラダンス、銭太鼓の演奏を観たり、地域の方と一緒にコーヒーやお茶を飲んだり賑やかな時間を過ごすことができました。

また、移動販売車による食品の販売も行われ大盛況でした。



河西部西地域包括支援センター

7月25日に当包括支援センター主催の多職種連携勉強会を開催し、エリア内の医療・福祉関係者30名ほどが集い、グループワークを通じて各地区の社会資源の確認をすることができました。会議では、新村・和田・梓川の各地区の生活支援員さんから地区内の社会資源の報告と、それに伴う地区の課題や、求める社会資源についてのグループワークを行い、今後、当包括支援センターエリアで社会資源がより一層地域で活用されることを期待し、サポートしていきます。



令和5年度 事業報告

第6次中期経営計画2年目の令和5年度は、家族との面会や地域の各種ボランティアとの交流など、新型コロナ感染防止対策を講じながら一部の施設内行事を再開してきました。年々職員採用が厳しさを増す中で、働きがいを感じながら勤務し続けたい職場を目指し、介護記録や見守り等におけるICT導入など職員の業務負担の軽減や、少ない職員体制でも適切なケアが提供できるよう生産性の向上に取り組むと共に、毎年繰り返し発生している豪雨や地震などの大規模災害発生時における、事業継続計画（BCP）に沿った訓練を行うなど、入居者利用者の安全対策も進めてまいりました。

また、機能訓練型デイサービス・小規模多機能施設など様々な介護ニーズに対応した他施設利用の影響から、利用状況が低迷していた「ゆめの里新村宅幼老所」を、令和6年3月31日付で開所後20余年の歴史に幕を閉じました。地元新村地区やJAの女性部・夢あわせの会など施設運営にご協力をいただきましたみなさまに、改めて感謝申し上げます。

令和5年度の当期サービス活動増減差額は、前年比で9,044千円改善し、4,961千円を確保しました。

【今後に向けた課題】

- (1) 生産年齢人口が減少する中で、業務のムリ・ムラ・ムダを減らし効率的な業務遂行が可能な生産性向上への取り組み強化
- (2) 経営理念の実現に向けて、地域の福祉ニーズに応えられるような中長期的な人材確保・育成・定着に向けた戦略の構築
- (3) 公益性に根ざした事業活動を可能とするため、来年度の介護報酬改定への対応を見据え、適正な収益を確保し安定的かつ自立した財務基盤の確立
- (4) 事業継続計画（BCP）の定着化、訓練（シミュレーション）実施による感染症・災害等危機管理体制の構築
- (5) JAの福祉事業の一部門としての法人であることの意識の共有化とJAとの連携、持続可能な福祉事業の展開に向けた運営体制の検討

令和5年度 収支の状況

1. 法人全体の資金収支の状況（単位：円）

項 目	金額
(1) 事業活動収支差額 (①-②)	82,838,059
①事業活動収入	1,455,963,180
・介護保険等事業収入	1,435,414,895
・医療事業収入	13,469,379
・その他事業収入（太陽光等）	7,078,906
②事業活動支出	1,373,125,121
・人件費	965,234,538
・事業費	209,563,674
・事務費	195,367,376
・その他事業支出	2,959,533
(2) 施設設備等資金収支差額 (①-②)	-31,067,448
①施設設備等収入	0
②施設設備等支出	31,067,448
・設備資金借入金元金償還支出	5,000,000
・固定資産取得支出	26,067,448
当期資金収支差額合計	51,770,611
前期末支払資金残高	600,290,872
当期末支払資金残高	652,061,483

2. 法人全体の事業活動の状況（単位：円）

項 目	金額
(1) サービス活動増減差額 (①-②)	4,961,314
①サービス活動収益	1,452,724,806
②サービス活動費用	1,447,763,492
・人件費	970,779,423
・事業費	209,563,674
・事務費	195,367,376
・その他サービス活動費用	72,053,019
(2) サービス活動外増減差額 (①-②)	2,945,073
①サービス活動外収益	3,238,374
②サービス活動外費用	293,301
経常増減差額 ((1) + (2))	7,906,387
(3) 特別増減差額	-1,120,705
①特別収益	0
②特別費用	1,120,705
税引前当期活動増減差額	6,785,682
法人税、住民税及び事業税	287,300
当期活動増減差額	6,498,382
前期繰越活動増減差額	324,311,185
当期末繰越活動増減差額	330,809,567
次期繰越活動増減差額	330,809,567

3. 法人全体の資産等の状況（単位：円）

項 目	金額
(1) 資産の部	1,946,647,604
①流動資産	774,336,004
②固定資産	1,172,311,600
(2) 負債の部	254,392,270
①流動負債	199,392,270
②固定負債	55,000,000
(3) 純資産の部	1,692,255,334
①基本金	845,189,942
②国庫補助金等特別積立金	353,255,825
③その他積立金	163,000,000
④次期繰越活動増減差額	330,809,567